

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1090201102 | | |
| 法人名 | ケアサプライシステムズ株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム かがやき | | |
| 所在地 | 群馬県高崎市吉井町岩崎2218-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年6月30日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | サービス評価センターはあとらんど | | |
| 所在地 | 群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年7月21日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は2ユニットあり、ユニット通路にはドアがありますが利用者様が自由に行き来できるように開放しています。現在、入所者様は8名ですが散歩がてら隣のユニットに行かれたりされています。食事を楽しんで頂くために、昼食のメニューは利用者様の食べたいものを取り入れるようにしています。誕生日会や季節ごとのイベントには華やかな食事になるよう心がけています。ホールや廊下にはソファが置いてあり利用者様同士と会話されたりしています。天気の良い日には施設の敷地内にある噴水の所まで散歩に出かけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事に関しては、楽しく食事をするための大切さを意識した支援をしている。利用者と職員と一緒にコープのチラシを見てあれこれと話し合いながら注文し献立へとつなげている。話し合いの中では在宅時代の食に関する思い出や利用者が実践してきたこと等話が広がり、職員と一緒に楽しんでいる。また、おやつを利用者が職員と一緒に作ったり、日常的に飲み物は利用者が選択できる機会を作り提供している。2ユニットあり、ユニット間の廊下をコロナ禍で外出できない環境に対応して、体を動かし歩行訓練ができるように開放している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所に掲示しており、また職員会議がある時は復唱するようにしている。 | 理念は職員会議で復唱している。管理者は職員が理念に沿って支援しているかどうか確認している。利用者への言葉かけに関して理念にそぐわない場合は注意している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナウイルの関係で地域との交流は図れていません。 | コロナ禍の現在は地域とのお付き合いはしていないが、地域の図書館を利用し、利用者が希望しているDVDを映画観賞用に借りてきている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナウイルの関係で地域との交流は図れていません。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナウイルの関係で会議は実施していませんが2か月1回、ご家族には個別で近状報告等伝えるようにしています。 | 定期的に書面開催となっている。活動報告・行事予定・ヒヤリハット報告等を記載した議事録を運営推進会議のメンバーに送付している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | コロナウイルスの関係で会議が開催できず市町村担当者との連携は図れていません | 法人の担当課長は事業所を定期的に訪問し、管理者と話し合っており、担当課長が市の担当者と面会している。介護保険の更新代行は家族が行い、認定調査には管理者等が立ち会っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員会議の中で、身体拘束適正化員会を3か月に1回開催し全職員に理解するよう努めている。玄関の施錠については利用者様の安全を配慮し施錠していますが必要に応じて解除するようにしています。 | 玄関は施錠している。コロナ禍で出勤職員と出席できる職員が参加する職員会議時に身体拘束について勉強している。スピーチロックに関しては注意し合っている。 | 玄関は電子錠になっており開放することは困難であるようだが、身体拘束にあたることを意識し、職員間で工夫して開錠する時間を設けてはいかかが。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員会議の中で、身体拘束適正化員会を3か月に1回開催し職員間で話し合うようにしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員会議の中で話に合う時間を設けている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所前に重要項目説明書を活用し十分に家族に説明している。また入所後でも説明を求められた場合はその都度対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナウイルスの関係で外部者に表せる機会を設けていませんが、ご家族からの意見や要望については電話やオンライン面会、利用料支払いなどに聞くようにしています。 | 家族とのオンライン・窓越し面会や遠方の方は月に1回程度電話で日頃の体調や現状を報告し、家族の意見を聞いている。本人からは、日頃の支援時に発した言葉や七夕の短冊を活用する等、意見を反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務日報があり職員の意見や要望を聞くようにしている。また臨時、個別に面談等話し合いの場を設けるようにしている。 | 業務日誌には職員が何でも記入できる欄を設け、職員と管理者が交換し記録し、内容によっては個別の面談も実施している。レクレーション等の意見が出ている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所される前に担当ケアマネジャーと一緒に家族の方からご本人様の生い立ちなど細かく教えて頂き対応に生かしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時にご家族の方と話し、悩みや考えなど聞き出し安心して頂けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所前にご本人とご家族からどのような生活をされていたのか細かく聞き、すでにサービスを受けている事業所があれば担当のケアマネジャー等に様子を確認するようにしている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | グループホームの特性を生かし、その人らしさを大切にし皆さんと一緒に生活していけるようにケアすることを心がけています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族との時間も大切に窓越しで面会されたり、オンライン面会も実施しています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入所されている方に合わせて、「できること」を積極的にして頂けるよう声掛けをさせて頂いている。 | 入居前に利用していたデイサービスを訪問することもある。好きなテレビ番組を継続して鑑賞していたり、レクレーションでぬり絵や作品作りを楽しんでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士のコミュニケーションを大切にする為席の工夫や寛げる場所の提供をしている。朝の体操には声掛けし一緒に参加して頂けるよう促している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 移動先やご家族より、ご連絡頂く場合がありますので、必要に応じて対応しています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中で本人の思いを聞き出し、他の職員と意見交換をしている。ご家族からはオンライン面会や利用料支払い時などに希望を聞くようにしている | ケアマネージャーが介護職を兼務しており、利用者との日常会話やケアの場面を通して意向等、把握している。家族からは利用料支払い時や電話等で状態変化を伝えて、希望を確認し検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴などをご家族やご本人に聞いて日々のケアに生かしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者申し送りノートと医療連携ノートを活用し職員同士で情報共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月の職員会議の中でモニタリングを実施しご家族やご本人の意見などを反映しケアプランの作成をしている。 | 毎月開催の職員会議時にモニタリングを実施している。3か月毎にアセスメント及びサービス担当者会議と共に、介護計画の定期的な見直しが行われている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員会議の中でカンファレンスを実施し意見交換を行い介護計画のみに直ちに反映させている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 来苑時や電話対応、オンライン面会時に意見や要望を聞くようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナウイルスの関係で地域との交流が実施できていません | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所契約時にかかりつけ医など確認し場合によっては事業所の往診も対応もできることを説明している | 入居時に説明し、事業所の協力医がそれまでのかかりつけ医を選択している。また、協力医の往診対応があると説明している。全員が協力医の訪問診療を月に2回受診している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携ノートを活用し、週一度訪問看護師と連携を図っている。また、特変時には電話で状態説明し明確な | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報を共有し退院前には主治医と連絡を取り合い早期退院に向けて相談するようにしている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 対象者が出た場合はご家族との連絡を密に取りご本人やご家族の意向に沿ったケアが行えるよう訪問看護など必要なサービスを受けられるように関係先との連絡も取れるようにしたい。 | 法人の終末期対応指針があり、指針に沿って医師の判断で、医療行為が必要なく希望があれば、終末期対応を支援する用意がある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | コロナウイルスの関係で応急処置などの手当ての訓練は実施していませんが訪問看護師より手当の指示や説明を受ける機会があるのでその時に職員同士で共有するようにしています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | コロナウイルスの関係で消防職員の立ち合いはありませんが自主訓練として避難訓練は年に2回実施するようにしています。(7月、10月) | 年に2回制度上決められた訓練を実施している。ハザードマップで事業所の立地は災害地域ではないことを確認している。備蓄として、食料・排泄用品を1週間分とヘルメット等用意している。 | 自主訓練を増やして、利用者と職員が災害時に適切な対応ができる様に訓練を重ね、技術を身に付けてほしい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員会議の中で議題の一つとして意見交換をしている。また、普段の仕事の中で適切な言葉かけをするよう気を付けている | 利用者同士の相性では気持ちよく過ごせる環境作りに配慮し、テーブル席では職員が間に入る等工夫している。車椅子でテーブルに着く場合は座布団を厚くする等対応している。できることには力を発揮してもらおう支援をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや考えを聞き出せるよう声掛けし利用者様に様々な選択ができるように日々の生活の中で考えるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様のペースに合わせて仕事をするように指導している。利用者様から「手伝うことがあれば教えてください」と声をかけてくださることもあるのでその時はできることを手伝って頂いている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人が着たい洋服など選んで頂き入浴時などに着替えられるようにしている。利用者様によっては毎日違う洋服を着ている方もいます。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 朝食と夕食は配食サービスを活用しています。昼食の献立は職員が考えていますが、利用者様に食べたいものを聞いたり、チラシを見て選んで頂いている。 | 昼食の材料は利用者と職員と一緒にコープのチラシを見てリクエストを聞きながら話し合い献立を決め、職員が作り提供している。おやつ作りや週に3回程度飲み物を選択する機会がある。献立を見易いところに掲示している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者様個々に合わせた食事形態で提供しています。決まった飲み物ではなく、要望を聞いて提供するようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、歯磨きや口腔ケアを実施している。ご自分で磨けない方はスポンジブラシを活用し口腔内の清潔に努めている。ご家族やご本人の要望があれば訪問歯科の利用もしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄パターンを記録に残し時間を見ながら声掛けにてトイレ誘導を促している。 | 排泄チェック表を参考に各人の排泄パターンを把握し時間やタイミングで声を掛け誘導している。昼夜同じ支援の人と夜間のみパットを使用する人等各人の状況によって支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事の中で食物繊維や乳酸菌などを取り入れ便秘の予防につなげている。毎朝、ラジオ体操を実施し運動を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は週2回実施していますが、時間に余裕がある時や利用者様から入りたいと希望があれば体調を配慮しながら実施するようにしている。体調や気分によって調整するようにしている | 決められた入浴日はあるが、人数・時間に余裕があった場合には声を掛けたり本人からの申し出により支援している。入浴剤を使用したり、自分のボディソープを持ってきている人もいます。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々に合わせて、ご本人の思うように過ごして頂けるよう声掛けをしている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の変更があった場合は利用者ノートに記録し情報共有している。副作用については薬情ファイルがあるので目的や副作用などわからない時は確認するようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 午後の時間を活用し、季節ごとの飾り付けを利用者様と一緒にしている。飾り付けした物は廊下の壁に掲示しています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナウイルスの関係で外出支援はできていません | コロナ禍ということで外出は実施していない。室内で楽しめるカラオケや映画鑑賞等、行っている。 | 庭先に花壇があるという好条件があるので、花壇の手入れや水遣り等を活用して外に出る機会を作ってほしい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 契約時にご家族やご本人の希望があればなるべく添えるようにしたい | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があればご家族に確認し対応できるようにしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室内の温度計など確認し過ごしやすいうように温度調整している。居室やホールは定期的に換気を行っている | 定期的にコロナ対策や生活臭に対応し、換気しているホールは四季折々の伝統行事の設えを行い、利用者の作品を掲示している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールや廊下にソファが設置してあり気の合った利用者様同士で過ごせるようになっている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時に、使い慣れた家具や寝具など持ち込み可能なことを説明し対応している | コロナ対策では定期的に換気し、生活臭対応ではリネンを清潔に保つようになっている。タンスや椅子、使い慣れた寝具、化粧品や手鏡、趣味のかるた等が持ち込まれている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一つの住まいなのでご自分の居室わからない方には目印になるようリボンなど付けて対応している。居室内にはテレビやタンスなど設置されている方もいます | | |